

1月歴史文化クラブ報告

大神神社初詣と三輪山登拝

中井 弘・青木 幸子

1月15日(火)、歴文クラブ主催による「奈良・人と自然の会」の大神神社初詣と三輪山登拝を行った。毎年の恒例行事となり、今年で4回目である。今回は34名と過去最多の参加者である。天気は幸いにも高曇りだが崩れることはなかった。

二の鳥居前で古川代表によるごあいさつの後、掃き清められた参道を登る。大神神社の境内は厳かな雰囲気があるが、例年に比べ参拝者が多い。それもそのはず、この日は小正月の火祭り行事「どんど焼き」の日であった。

登山口の狭井神社は大神神社の摂社で、ここで登拝組30名と散策組4名に分かれる。社務所で借りた白禊を掛け「自祓い」して登拝開始。



山中には杉や檜の大木がうっそうと茂り森厳な雰囲気だが、度重なる台風で倒れた巨木が目につく。

幹に硬くて鋭いとげがあるカラスザンショウの大木の群生を見ながら登り続ける。

中腹の中津磐座(大己貴命)で2名が引き返した。さらに急坂を登ると、山頂の奥津磐座に着いた。この磐座は大物主神の依代である。天から神が降臨するところとされ、古代祭祀の遺跡であり一種畏敬の念を感じる。所要時間1時間10分。

古事記・日本書紀の記述では、天孫降臨以前、大物主神(大神神社のご祭神)が、国造りに悩んでいた大国主神の前に現れ、国造りを成就させるために、自らを三輪山に祀ることを望んだとある。

下山途中裸足で登ってくる東京からの女性に出

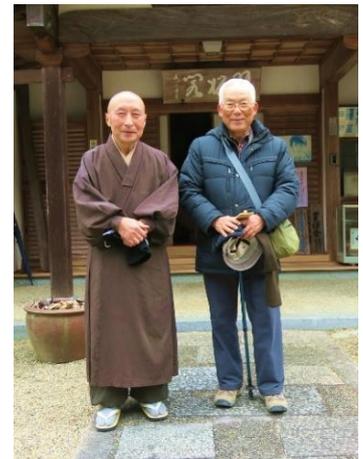
会う。ご神体の山に靴履は恐れ多く、またパワースポットとされる三輪山のパワーを感じるためとか。休憩もせず50分で狭井神社に降り立った。

一方散策組4名は大神神社周辺を散策する。

まず大和三山を望む素晴らしい景色の展望台へ。なんと三山を包み込むように長い朝霧^{あさもや}の帯が漂っており、幻想的な景色にしばしうっとり。

続いて知恵の神様・久延毘古命を祀る久延彦神社へ、入試合格の願掛絵馬がびっしり掛けられている。孫の受験用にお守りを買う2人。そこから少し歩いて平等寺へ。

本尊は十一面観音である。ご住職から貴重なお話を伺った。平等寺はかつては大神神社の奥の院・神宮寺で、12の大伽藍を有した由緒ある名刹であったが、明治の神仏分離令で破壊され廃寺になったと



いう。飛鳥様式の本堂は、托鉢(講演など)した浄財でご住職自から設計して再建されたとか。まだまだ壮大な計画をお持ちのご住職。お名前は「丸子孝法」さま。ご先祖は天理市の和爾遺跡群辺りを支配地域とする豪族・和爾氏の系譜とか。現代版行基さんのような方にお会いでき幸せな気持ちになった。

総合案内所前で総勢34名全員が合流。徳川家光が再建したとされる、重文「拝殿」へ登る。身が引き締まるような肅然とした感じに打たれる。神職の祝詞が厳かに奏上されたあと、古川さんが当会を代表して玉串拝礼を行う。会の繁栄、会員の安全、活動日の好天をお祈りした。

次に巫女さんによる鈴払いがあり、鈴の妙なる音色は静かに心の奥底まで染み入り、誠に心身が清らかになる。お神酒を頂いた後、拝殿奥の神聖な三ツ鳥居(三輪鳥居ともよばれる)を通しご神体・三輪山を参拝した。

例年の如く「福神堂」で「三輪そうめん」を肴に銘酒「三諸杉」をいただき、心身ともに良い気分三輪を後にした。